



新ひだか町立病院コラム Vol. 13

感染対策を学ぶ

国内では新たな変異株の新型コロナウイルスがまん延していますが、同時に感染対策の方法も日々変化していることかと思えます。

この度、三石国保病院では、職員の感染対策のひとつとして、分子ラボ株式会社が立ち上げた「病院サポートプログラム」に応募し、当選した「分子マスク」を紹介したいと思います。マスクを着用しての業務や生活が日常となった昨今ですが、長時間の着用となれば、息苦しさや肌荒れなど気になる方も多いかと思えます。しかし、日頃から安全な医療を提供するためには、私たち医療従事者にとって欠かすことのできないマスクですから、当選した「分子マスク」を職員に配布し、感染対策の一つとして取り上げることに決めました。

また、2月2日には、感染対策研修会を開催し、「感染対策の基本」と題した講義を受け、再度学ぶことにより、職員は一層の感染対策強化を図っています。

地域医療を守るためにも感染対策は大切なことですが、早く感染症が終息するため一人ひとりが協力して、感染症に打ち勝ちたいですね。



分子マスクの性能についてインタビューしてみました。

※人によって個人差はあります。

最新ナノファイバーフィルターが採用されているため、N95マスクより呼吸が楽です。布感がしっとりした素材で肌に優しく、蒸れ感もありませんが、若干ホコリが目立ちました。(黒色使用)

最初は、自分が普段着用している不織布マスクより苦しく感じました。N95マスク着用時に近い感じですが、慣れると気にならない程度の苦しさで、マスクに守られている感があります。紐の部分が調節出来るので、サイズ調整が容易であり、洗濯しても非常に丈夫です。

院長のつぶやき

院長の小松です。新型コロナウイルス感染症もオミクロン株の出現によって今までにないほどの感染拡大を起こしています。

オミクロン株の感染力の強さは、理化学研究所のスーパーコンピュータ「富岳」を使用したシミュレーションで、マスクを着用していても、話している人の50cm以内に入るとリスクが高いと検証され、常に1mほどの距離を開ける必要があるそうです。感染予防のためには、手洗いとマスク着用とされていますが、飲食店などでは、仕切り板の設置や換気などを徹底し、リスクを減らす対策が重要です。ポストコロナとかアフターコロナというよりはウィズコロナ(コロナとの共存)の新しいライフスタイルを。



- ①3密を避ける
- ②発熱したら自宅で療養
- ③感染者に対する差別的扱いや誹謗中傷は絶対に行わない。

一人ひとりの思いやりがあなたとあなたの大切な人の命を守ることができるのです。

作成:新ひだか町立病院

❁町立静内病院 0146-42-0181(代表)

新ひだか町静内緑町4丁目5番1号

❁三石国保病院 0146-33-2231(代表)

新ひだか町三石本町214番地

